

NEWS RELEASE

肌の生命力溢れる輝きの実体を“光”の観点から解明
世界的照明家・豊久将三氏との共同研究により美しく見える素肌の光特性を発見

ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業株式会社(本社:東京都品川区、社長:岩崎泰夫)は、世界的な照明家・豊久将三氏と共同研究を行い、美しい肌の“生命力溢れる輝き”は、素肌が反射する光の波長パターンに起因していることを発見しました。

本研究は色温度の観点と、肌からの反射光の波長パターンの観点から行われ、5000K(ケルビン)の色温度と、460~500nm(ナノメートル)の波長領域が高いパターンの光が重要であるという、最も肌が美しく見える光特性を見出しました。

本知見は、ポーラ・オルビスグループの株式会社ポーラから2013年秋に発売される化粧品に活用される予定です。

① 色温度と肌の美しさの関係の解析

2500~8000Kの間にある色温度が異なる13種の光を特定の被験者の顔に照射し(図1参照)、専門パネラーによって、肌が美しく見える順に並べました。その結果、4500~5500Kの範囲の色温度の光を当てた場合に肌が美しく見えること、5000Kの光を当てた場合に最も肌が美しく見えることを見出しました。

5000Kの色温度は一般的に午前9時あるいは午後3時の日中の光と同等の色合いとされています。



図1 色温度の異なる光を被験者の顔に照射した時の比較写真

② 肌の美しさと反射光スペクトルの解析

複数の、波長パターンが異なる5000Kの色温度の光を上記①の被験者の顔に当て、専門パネラーによって、肌が美しく見える反射光の順にランク付けを行いました。続いて、ランク付けした反射光の波長パターンを分析すると、460~500nmの波長領域が高いパターンの反射光が肌を美しく見せているという結果となりました(図2参照)。

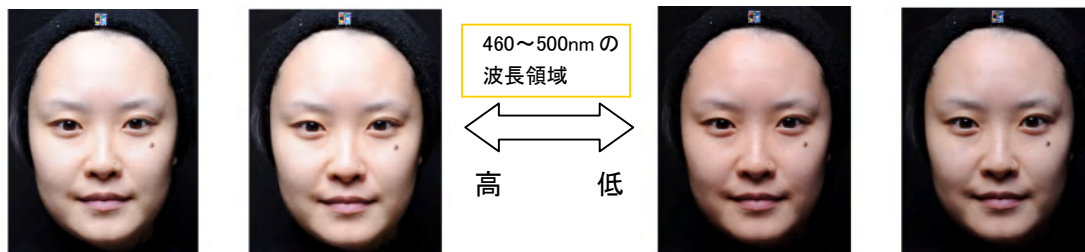


図2 反射光スペクトルで460~500nmの波長領域が高い顔写真(左側2つ)と、低い顔写真(右側2つ)

これらの研究結果は、本年10月15~16日にイタリア・ミラノで開催される国際皮膚計測学会(ISBS/SICC 1st JOINT INTERNATIONAL CONGRESS)で発表する予定です。

【本件に関するお問い合わせ先】 (株) ポーラ・オルビスホールディングス 広報・IR室 小川洋之
Tel 03-3563-5540/Fax 03-3563-5543

【参考資料】

ライティング・アーキテクト 豊久将三(とよひさ しょうぞう)

最新のテクノロジーを使った光の表現を主に行う。ニューヨーク近代美術館での「CONTEMPORARY JAPANESE TEXTILES」展における光ファイバーを使用した照明で世界的な評価を得る。現在までに、東京国立博物館・法隆寺宝物館をはじめ、セントルイス美術館、モントリオール現代美術館、森美術館、ポーラ美術館、サントリー美術館、原美術館、根津美術館、三菱一号館美術館などの展示照明とともに、ニューヨークを中心に個人コレクターの自邸の照明も数多く手がける。他に国立国会図書館・関西館などの大型施設照明、POLA 銀座、OAK 表参道、Dior 表参道、Gucci 銀座、BVLGARI 銀座などのファサード照明や店舗照明など、幅広い活動を行っている。